

“Create the future with *n*”



# 2022年3月期第1四半期 決算説明会資料

証券コード 6306

**日工株式会社**

専務取締役 管理本部長

藤井 博

2021年8月25日

□本説明会資料において当社事業のアスファルトプラントを『AP』、コンクリートプラントを『BP』と表記致します。

**2021年度1Q決算説明** ▶ **P.3-16**

---

参考資料 ▶ P.18-21

---

会社情報 ▶ P.23-27

---

※本資料の増減数値は単位未満の端数処理により  
末端数値が四半期報告書と異なる場合があります。

## 2022年3月期 1Q実績

(単位：百万円)

第1四半期（4-6月）	実績	対前年同期	対前年増減率
売上高	8,817	+1,546	+21.3%
営業利益	375	▲33	▲8.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	378	▲368	▲49.3%

- ▶ AP事業売上：国内製品、メンテナンスともに増、海外は輸出が減少するも現地法人売上高大幅増
- ▶ BP事業売上：国内製品、メンテナンスともに大幅増
- ▶ 受注高は、AP減、BP大幅増

## 事業環境

## AP事業

21年度1Q（4-6月）	実績（万トン）	対前年同期比
合材製造量	810	99.5%
新規合材	216	98.4%
再生合材	594	99.9%

再生合材比率 73.3%

資料出所：（一社）日本アスファルト合材協会

## BP事業

21年度1Q	実績（万㎡）	対前年同期比
生コンクリート出荷量	1,855	98.6%

資料出所：全国生コンクリート工業組合連合会・全国生コンクリート協同組合連合会

## 第1四半期の数字

□売上は8,817百万円で前年同期比21.3%の増収となりましたが、営業利益は同8.1%減益の375百万円となりました。四半期純利益は、前年同期に特殊要因があった関係で49.3%の大幅な減益となりました。

□対前年同期比較では、増収でありながら減益となりましたが、第1四半期の決算数字は我々としては予定通りで、期初計画通りに進捗したと認識しています。

□主要事業のAP、BPの事業環境は大きくは変わっていません。APの市場環境の指標になる合材の製造量は、前年とほぼ変わらず前年同期99.5%でした。生コンの出荷量も同98.6%で若干減っていますが、ほぼ前年並みの状況です。

お客様の設備投資に対する意欲も昨年同様、非常に高い水準で推移していると認識しています。



- ・売上 前年同期比大幅増  
→P.5 業績ハイライト (1)



- ・受注高・受注残高ともに前年同期比増  
→P.5 業績ハイライト (1)  
P.19 事業別受注高と受注残高の推移



- ・海外子会社売上、対前年同期比大幅増  
→P.5 業績ハイライト (1)  
P.8~9 AP関連事業、AP関連事業 (内訳推移)



- ・営業利益、営業利益率、四半期純利益ともに対前年同期比減  
→P.5~6 業績ハイライト (1) (2)

## 決算ハイライトについて

- 売上は前年同期より大きく増えました。  
その要因は、国内のAPとBPの製品の売上が大きく増えたことと、昨年はコロナの影響で低調であった中国の第1四半期の売上がコロナの影響がほぼ無くなり、海外の売上が増えたためです。
- 営業利益は額でいうと微減でしたが、営業利益率は昨年の5.6%から4.2%へと大きく悪化しました。APの製品の売上の中に赤字物件が2つ入っていたこと、研究開発費の増加による販管費の増加の2つの要因が主に影響しました。  
  
1点目でAPの赤字物件は、前期末の決算時点において受注損失引当金を計上していましたが見積原価よりも実際原価が上回り、引当金ではカバーできず追加で損失計上しました。  
  
2点目は金額は大きくありませんが、研究開発費を今期は年間で約300百万円ほど増やす計画であり、研究開発費の増加により販管費が増加しました。
- 純利益は、前期は前田道路の特別配当金が約340百万円ありましたが、これが今期は剥落した関係で大きく減益となりました。

## 2021年度 業績ハイライト (1)



### 対前年同期実績

- ▶ 売上 : 国内AP製品増 (+10.6億円)、BP製品増 (+4.9億円)、海外増 (+7.3億円)、環境及び搬送減 (▲1.0億円)、その他事業売上増 (+0.8億円)
- ▶ 営業利益 : AP戦略的受注物件の売上、研究開発費の増により減益
- ▶ 四半期純利益 : 前期にあった前田道路(株)の特別配当金分割(▲3.4億円)、有価証券売却益 (+0.8億円)
- ▶ 受注 : AP事業 (▲7.3億円)、BP事業 (+10.8億円)、環境搬送 (▲2.2億円)、その他事業 (+1.6億円)
- ▶ 受注残 : AP事業 (▲9.9億円)、BP事業 (+13.3億円)、環境搬送 (+3.6億円)、その他事業 (+1.7億円)

(単位: 百万円)

	2020年度			2021年度				
	1Q実績	上期実績	通期実績	1Q実績	前年同期比	上期予想 進捗率	上期予想	通期予想
売上高	7,271	18,225	37,866	8,817	+1,546 +21.3%	46.4%	19,000	39,000
営業利益	408	1,000	2,302	375	▲33 ▲8.1%	34.1%	1,100	2,300
営業利益率	5.6%	5.5%	6.0%	4.2%	▲1.4pt	—	5.7%	5.9%
経常利益	979	1,588	2,973	519	▲460 ▲47.0%	39.9%	1,300	2,500
親会社株主に帰属する 当期純利益	746	1,099	2,082	378	▲368 ▲49.3%	44.5%	850	1,700
受注高	9,469	19,036	40,009	9,753	+284 +3.0%	47.6%	20,500	41,000
受注残高	14,417	13,030	14,361	15,298	+881 +6.1%	—	15,861	16,361

(単位: 円)

為替レート (EUR)	121.65	126.48	124.06	—	—	—	—	135.00
為替レート (RMB)	15.19	16.12	15.66	—	—	—	—	16.00

www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2021 All rights reserved.

5

### 第1四半期の全体の数字について

□第1四半期の全体での受注高は9,753百万円となり、前年同期9,469百万円よりも若干増えました。

□セグメントで見るとAPの受注が前年同期より▲7.3億円となりましたが、第1四半期のみの数字であり、今のところ通期は国内外合わせて前期よりもさらに受注額が増える見通しは変わりません。

一方、BPは前年同期よりも10.8億円の受注増となりました。期初には前年より若干、通期の受注額が減る見通しでしたが、足元の受注状況は非常に好調に推移しています。

□受注残高に関して、APは前年同期比約10億円の減、BPは13億円の増になりました。全体では、第1四半期末は前年同期よりも約9億円増の152億円という高い水準となりました。

## 2021年度 1Q業績ハイライト (2)



(単位：百万円)

		2020年度			2021年度				
		1Q実績	上期実績	通期実績	1Q実績	前年同期比	上期予想 進捗率	上期予想	通期予想
AP関連事業	売上高	3,991	8,667	17,518	5,058	+1,067 +26.7%	50.1%	10,100	20,000
	営業利益	340	676	1,118	199	▲141 ▲41.4%	29.3%	680	1,250
	営業利益率	8.5%	7.8%	6.4%	3.9%	▲4.6pt	—	6.7%	6.3%
BP関連事業	売上高	1,478	4,569	9,158	1,972	+494 +33.4%	38.1%	5,170	9,600
	営業利益	88	297	761	196	+108 +122.7%	40.0%	490	850
	営業利益率	6.0%	6.5%	8.3%	9.9%	+3.9pt	—	9.5%	8.9%
環境及び搬送 関連事業	売上高	524	1,353	2,634	424	▲100 ▲19.1%	35.6%	1,190	2,400
	営業利益	114	219	562	66	▲48 ▲42.1%	30.0%	220	450
	営業利益率	21.8%	16.2%	21.3%	15.6%	▲6.2pt	—	18.5%	18.8%
その他事業	売上高	1,275	2,549	5,840	1,361	+86 +6.7%	45.7%	2,980	7,000
	営業利益	171	448	1,020	157	▲14 ▲8.2%	26.6%	590	1,150
	営業利益率	13.4%	17.6%	17.5%	11.5%	▲1.9pt	—	19.8%	16.4%
全社費用		▲305	▲683	▲1,409	▲244	+61	36.4%	▲670	▲1,400

▶ AP関連事業売上高 : 国内事業売上高 対前年同期比+10.8%、海外事業売上高 対前年同期比 +84.8%  
 ▶ BP関連事業売上高 : 対前年同期比+33.4%  
 ▶ 環境及び搬送関連事業売上高 : 対前年同期比▲19.1%  
 ▶ その他事業売上高 : 対前年同期比 +6.7%

www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2021 All rights reserved.

6

### 第1四半期セグメントの数字について

□APは売上が大幅に増えましたが、国内の製品に赤字があった関係で前年よりも大きく減益となりました。

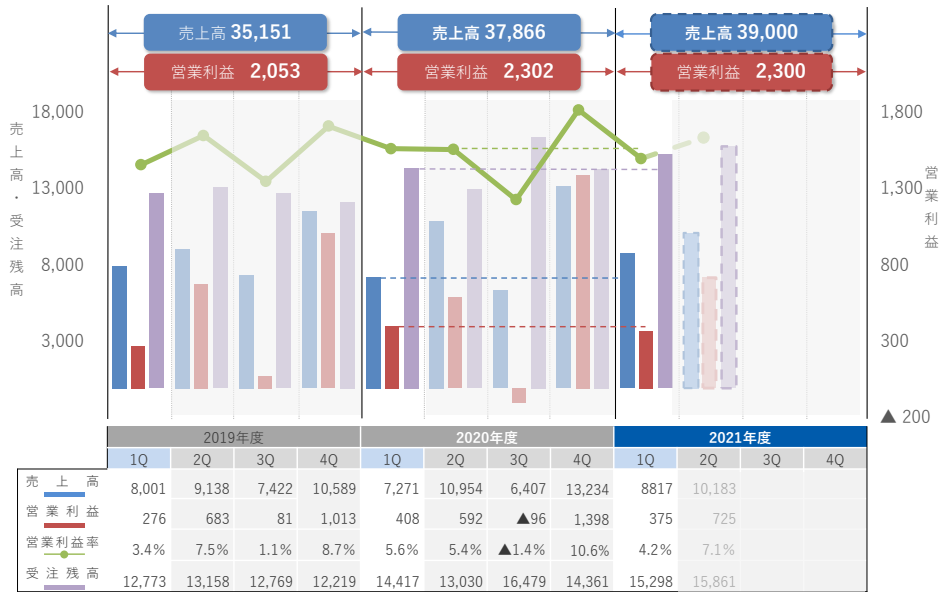
BPは前年対比で増収・増益となりました。

環境・搬送は、特に搬送事業が今年度もコロナの影響の回復が見られず、前年対比で売上が1億円減となりました。

その他事業は、ほぼ前年並みで若干の増となりました。

四半期別売上高・営業利益推移

(単位：百万円)



四半期ごとの業績推移について

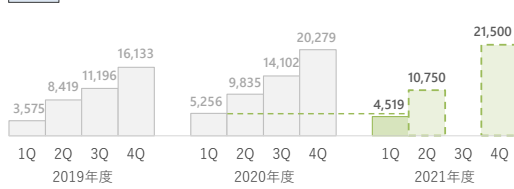
□2021年度第2四半期の3ヶ月の見通しは、売上高101億円、営業利益725百万円、営業利益率7.1%となります。

第2四半期に国内のAP、BP製品の売上が集中するため、全体の売上が100億円超えの見通しです。

□第2四半期のAPの製品の売上の中には、今のところ赤字物件が無いいため、利益率の面でも改善すると予想しています。

## 受注高

(累計) (単位: 百万円)



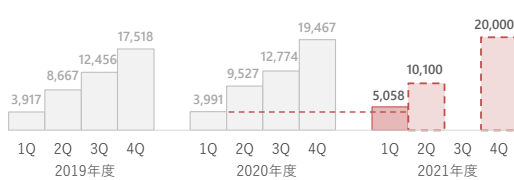
## ▶ 受注高

・受注高: ▲14.0%

(要因)

+ 要因 海外: 中国は、前年のコロナ影響による落ち込みから回復  
 ▲ 要因 国内: 2Q受注へずれ込み 2件

## 売上高



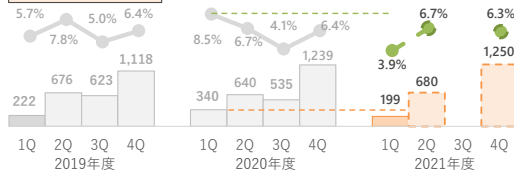
## ▶ 売上高

・国内売上高: 対前年同期比 +10.7%  
 ・海外売上高: 対前年同期比 +84.7%

(要因)

国内: AP3台の内2台が大型プラントであり増加  
 中国: コロナ前に回復  
 タイ: 受注案件1台売上

## 営業利益・営業利益率



## ▶ 営業利益

営業利益: 対前年同期比 ▲41.4%  
 営業利益率: 対前年同期比 ▲4.6pt

(要因)

・国内: AP赤字案件2件を売上(合計売上高5.7億円)  
 ・中国: 鋼材価格・人件費上昇により粗利益率ダウン

## 各セグメントごとの状況について

## AP関連事業

## □受注状況

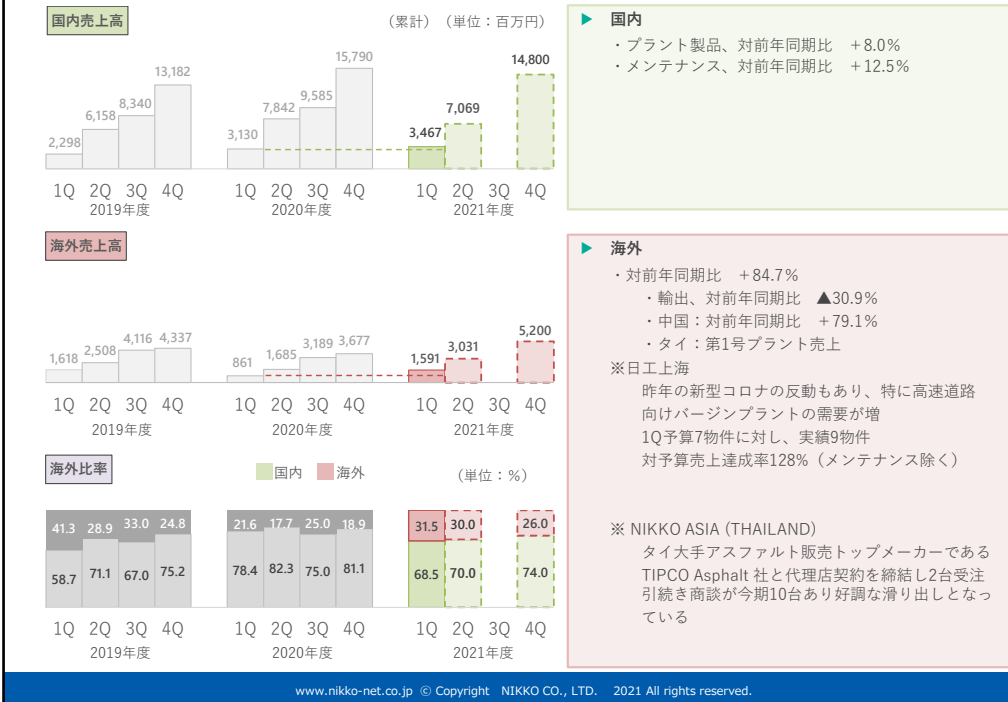
第1四半期だけを見ると、受注高は前年同期より減少しましたが、通期は215億円の見通しです。前期の受注もかなり良かったのですが、前年よりもさらに上振れる見込みです。

上振れる要因は海外です。国内は前年並みですが、中国と前期に会社を設立したタイの滑り出しが好調で受注が伸びる予想をしています。

## □売上高

通期及び上期の見通しは、期初に出した数字通りに推移すると見ています。





海外について

□海外の第1四半期の売上は1,591百万円で、ほとんどが日工上海の売上でした。前期はコロナの影響で落ち込みましたが今年度は2019年度並みに回復しました。

1Q実績では2019年度並に戻っただけですが、通期では売上52億円と2019年度より10億円近い増収を見込んでいます。中国も2019年度よりさらに売上が増える見込みです。タイは好調な滑り出しとなっており、台湾への輸出も今期は増加する見込みです。

□日工上海

今期、高速道路向けのバージンプラントの需要が増えています。予算受注7物件に対し、9物件の売上が上がっています。

□タイ

コロナの感染状況は非常に厳しい状況ですが、主に代理店ルートでの営業活動を行っています。

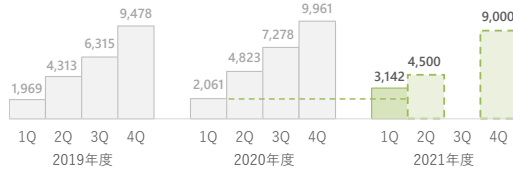
TIPCO Asphaltというタイにおけるアスファルトの製造・販売のトップメーカーと代理店契約を締結することができました。TIPCO Asphaltは、タイ国内のAPユーザーの約7割にアスファルトを卸しており営業ネットワークを持っています。

WIN-WINの関係が構築できたと考えています。

すでに2台正式に受注をいただいております、さらに10台程の確度の高い受注案件があります。

## 受注高

(累計) (単位: 百万円)



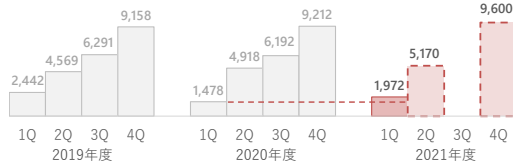
## ▶ 受注高

対前年同期比 +52.4%

(要因)

「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の決定、生コン単価の安定によりユーザーの高い投資意欲が継続

## 売上高



## ▶ 売上高

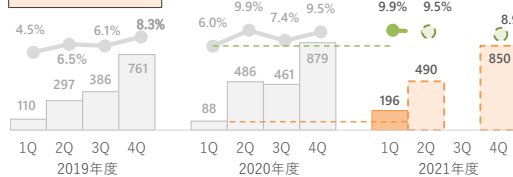
対前年同期比 +33.4%

- ・プラント製品、対前年同期比 +41.1%
- ・メンテナンス、対前年同期比 +28.8%

(要因)

5月GW工事物件の増加により、売上高が増加

## 営業利益・営業利益率



## ▶ 営業利益

- ・営業利益、対前年同期比 +122.7%
- ・営業利益率、対前年同期比 +3.9pt

(要因)

・売上高の増加にともなう営業利益の増加  
・計画生産によりコストダウンを図ることができ利益率が向上

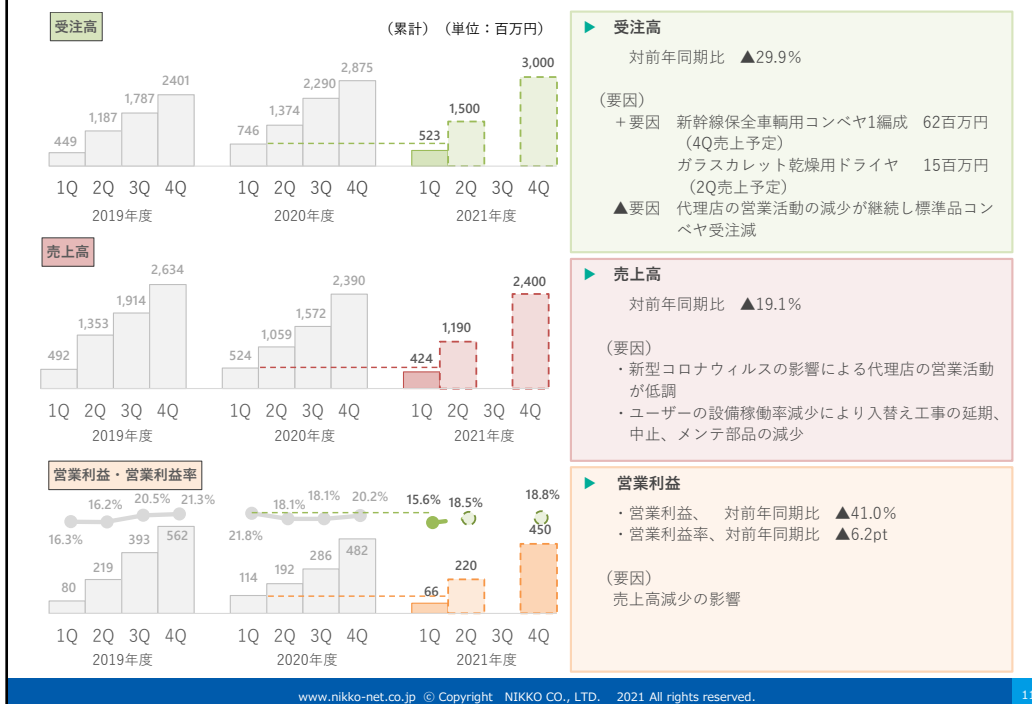
## BP関連事業

## □受注状況

通期では前年度、あるいは前々年度からの反動減により少し減少すると期初は見込んでいましたが足元の受注状況は極めて好調です。現状から、前年並み若しくは前年度を若干上回るくらいまで受注高が伸びるのではないかと見込んでいます。

## □売上高、営業利益

第1四半期の売上高、営業利益は予定通りの数字となっています。このまま進捗すると期初の予想より上振れが期待できると考えています。



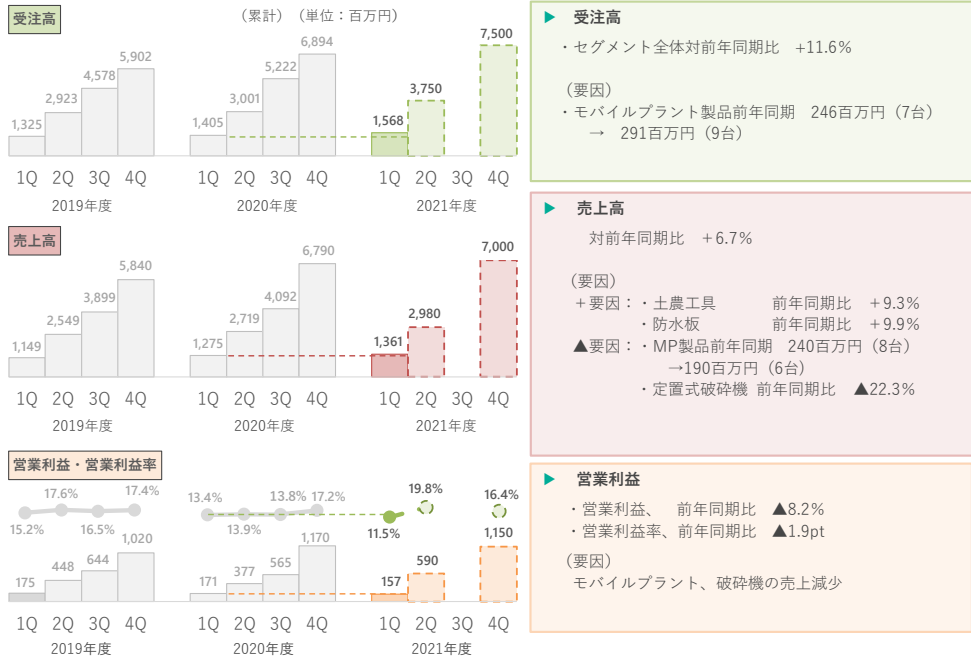
環境及び搬送関連事業

□受注高

第1四半期の受注高は523百万円となりました。特別大きな案件がなかったこともあり、受注は出だし好調という状況ではありません。

□売上高

第1四半期の売上高は424百万円となり、前年、及び前々年と比べて減収となりました。ほぼ100%代理店を通しての販売になっている汎用のベルトコンベヤが、コロナの影響が続いていることにより営業活動が活性化していないためです。



その他の事業

□受注

受注状況は、引き続き力を入れているMPの事業が好調に推移しており、前年同期よりも増えています。

通期でも前年より増加の75億円という見通しを出しています。

MPと防水板事業が今年度も引き続き伸びていくと予想しています。

## 2021年度1Q 経常利益 増減要因分析



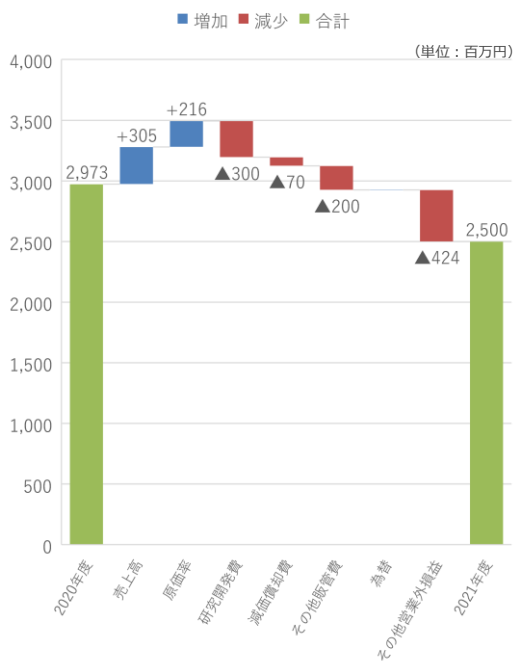
項目	影響額	内容
売上高	+470	売上高の増加 +1,546百万円
原価率	▲313	原価率上昇 69.6%→73.1%
研究開発費	▲29	
減価償却費	▲1	
その他販管費	▲160	
その他営業外 (配当金収入)	▲424	特別配当金 344百万円剥落

経常利益の増減要因分析です。

□前年同期と今期1Qの比較を表記しています。

売上高が増えたことによる利益増はありますが原価率が悪化しました。原価率は前年同期が69.6%から今期第1四半期は73.1%に悪化しました。年間通して見ると、前年度は73.1%、前々年度は72.6%となっており、今期第1四半期の数字が特別に悪いというものではありません。

## 2021年度通期 経常利益 増減要因分析（予想）



(単位：百万円)

項目	影響額	内容
売上高	+305	売上高の増加 +1,134
原価率	+216	原価率の改善 73.1%→72.5%
研究開発費	▲300	
減価償却費	▲70	
その他販管費	▲200	
その他営業外 (配当金収入)	▲424	特別配当金 344百万円剥落

www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2021 All rights reserved.

14

### 通期の経常利益の増減要因分析の予想

□通期の予想では経常利益は、前年の約30億円から今年は25億円に減少する見込みです。売上高による利益押し上げ要因として約3億円、原価率は通年では前年よりも若干改善し2億円程度の増益の見込みです。

一方で、年間を通して研究開発費が約3億増加します。また減価償却費も約70百万円ほど増加すると見込んでいます。

## バランスシートの推移



(単位：百万円)

		2020年度 1Q	2021年度 1Q	増減	増減の主な要因
資産	流動資産	31,641	32,500	+859	増加：現金及び預金 +1437百万円 電子記録債権 +284百万円 仕掛品 +815百万円 原材料及び貯蔵品 +350百万円 減少：受取手形及び売掛金 ▲792百万円 商品及び製品 ▲980百万円 その他 ▲267百万円
	有形固定資産	7,739	9,225	+1,485	増加：建物及び構築物 +242百万円 機械装置及び運搬具 +143百万円 土地 +563百万円 減少：投資有価証券 ▲187百万円
	無形固定資産	427	658	+230	
	投資その他	6,676	6,360	▲315	
総資産合計		46,484	48,744	+2,259	
負債	流動負債	13,192	14,853	+1,661	増加：支払手形及び買掛金 +546百万円 短期借入金 +567百万円 未払金 +141百万円 前受金 +1,119百万円 減少：電子記録債務 ▲323百万円 ファクタリング未払金 ▲224百万円 退職給付に係る負債 ▲109百万円
	固定負債	2,960	2,781	▲179	
純資産合計		30,332	31,109	+777	増加：利益剰余金 +454百万円 為替換算調整勘定 +225百万円 その他有価証券評価差額金 +243百万円 退職給付に係る調整累計額 +118百万円 減少：自己株式 ▲270百万円
1株当たり純資産（円 銭）		785.23	813.40	+28.17	

※当社は、2019年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しております。  
1株当たり純資産は、2018年度連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、算定しております。

www.nikko-net.co.jp © Copyright NIKKO CO., LTD. 2021 All rights reserved.

15

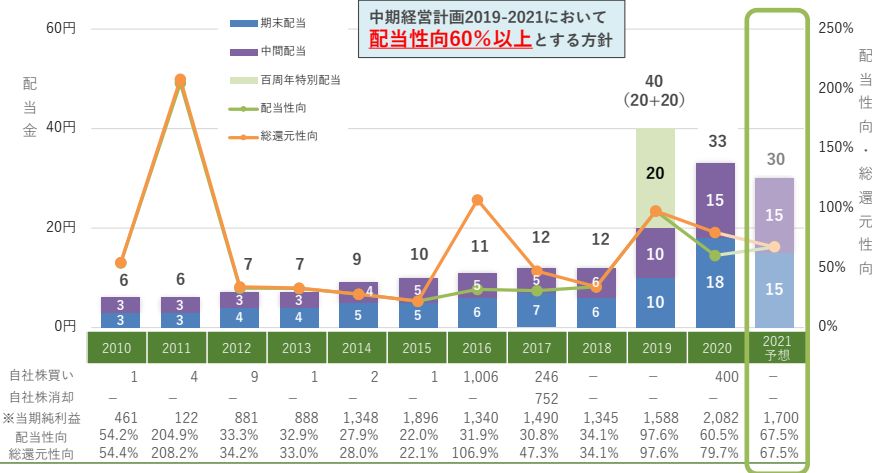
### バランスシートに関して

B/Sの昨年の第1四半期との比較です。

- 総資産が20億円程度、5%ほど増加しています。  
流動資産は有形固定資産が増加しましたが、積極的に設備投資をおこなっているためです。有形固定資産は前年同期より1,485百万円増加しました。土地が563百万円増えたのは、ほとんどがタイの工場の建設用地の取得によるものです。機械や建物構築物も減価償却費をかなり上回る設備投資を積極的におこなっているため増加しました。
- 投資有価証券はほとんどが政策投資株ですが、持ち合い解消を進めており、前年同期より187百万円減少しました。
- 負債に関して特別なものはありませんが、一点だけ前受金の金額が前年よりも11億円増加しました。2年ほど前から資金の回転率改善のため、特にAPの回収条件を契約時に原則、3分の1の前受金をいただく努力をしてきました。その努力が徐々に出てきています。
- 純資産に関しては、前年と比べると全体で777百万円増加しました。自社株買いを行った関係で、自己株式が270百万円増加しています。

● 株主還元の強化

□ 2022年3月期の配当金30円（中間15円、期末15円）  
（配当性向67.5%） 予定



★2019年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施しており、分割後の配当金額に統一して記載しています  
※当期純利益＝親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）

株主還元方針について

- 今年度が中期経営計画の3年目の最終年度です。  
今の中計期間中は、配当性向60%以上の方針を掲げています。配当性向は2019年度は97.6%、2020年度は60.5%、2020年度は自社株買いもおこなったので、総還元性向では79.7%になりました。  
今年度は配当性向67.5%を予定しています。
- 配当金は、2019年度は100周年にあたる年で記念配を20円おこないました。2020年度は最終的に利益が予想値を上回ったため、期初の年間30円の配当予定から33円の配当をおこないました。  
今期は純利益の見込みが17億円であるため、30円の配当、配当性向7.5%の予定です。



2021年度1Q決算説明 ▶ P.3-16

---

**参考資料** ▶ **P.18-21**

---

会社情報 ▶ P.23-27

---

# 売上高・利益・キャッシュフロー等の推移



(単位：百万円)

	19年度				20年度				21年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	8,001	9,139	7,422	10,589	7,271	10,954	6,407	13,234	8,817			
AP関連事業	3,917	4,750	3,789	5,062	3,991	5,536	3,247	6,693	5,058			
BP関連事業	2,442	2,127	1,722	2,867	1,478	3,440	1,274	3,020	1,972			
環境及び搬送関連事業	492	861	561	720	524	535	513	818	424			
その他事業	1,149	1,400	1,350	1,941	1,275	1,444	1,373	2,698	1,361			
営業利益	276	683	81	1,013	408	592	▲96	1,398	375			
AP関連事業	222	454	▲53	495	340	300	▲105	704	199			
BP関連事業	110	187	89	375	88	398	▲25	418	196			
環境及び搬送関連事業	80	139	174	169	114	78	94	196	66			
その他事業	175	273	196	376	171	206	188	605	157			
全社費用	▲313	▲370	▲322	-404	▲305	▲391	▲248	▲525	▲244			
経常利益	361	673	129	979	979	609	▲89	1,474	519			
親会社株主に帰属する当期純利益	270	733	▲33	618	746	353	▲133	1,116	378			

営業CF	3,809				2,784							
投資CF	▲609				▲1,867							
配当金総額	229	—	775	—	775	—	572	—				
自社株取得額	0				400							

## 事業別受注高と受注残高の推移（累計ベース）



(単位：百万円)

受注高（累計）	19年度				20年度				21年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
AP関連事業	3,575	8,419	11,196	16,133	5,256	9,835	14,102	20,279	4,519			
BP関連事業	1,969	4,313	6,315	9,478	2,061	4,823	7,278	9,961	3,142			
環境及び搬送関連事業	449	1,187	1,787	2,401	746	1,374	2,290	2,875	523			
その他	1,325	2,923	4,578	5,902	1,405	3,001	5,222	6,894	1,568			
合計	7,320	16,843	23,877	33,915	9,469	19,036	28,893	40,009	9,753			

期末受注残高	19年度				20年度				21年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
AP関連事業	8,466	8,561	7,548	7,424	8,688	7,732	8,751	8,235	7,696			
BP関連事業	2,967	3,184	3,464	3,760	4,342	3,665	4,845	4,508	5,678			
環境及び搬送関連事業	342	219	258	152	373	467	869	636	734			
その他	997	1,194	1,498	883	1,013	1,165	1,553	981	1,187			
合計	12,773	13,158	12,769	12,219	14,417	13,030	16,479	14,361	15,298			

## 設備投資、減価償却費、研究開発費、非財務データの推移



(単位：百万円)

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
設備投資	292	335	844	815	877	1,261	550	1,889	1,483	2,748
減価償却費	432	389	395	422	487	482	472	508	611	677
研究開発費	239	256	295	276	227	271	291	211	379	392

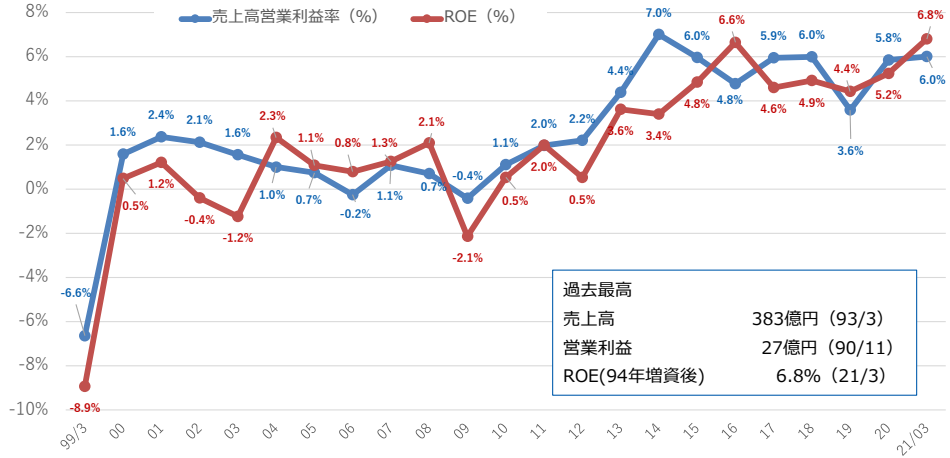
(単位：人、歳、年)

連結従業員数	775	763	767	796	803	797	807	799	838	861
従業員平均年齢(単体)	44.2	44.7	43.3	43.1	42.2	42.3	42.2	40.9	41.1	41.1
平均勤続年数(単体)	21.5	21.2	20	19.3	18.2	18.5	18.3	16.0	15.8	15.4
女性社員数(単体)	28	31	31	33	39	42	42	45	51	55
新卒採用者数(単体)	13	15	21	21	30	17	19	15	14	29
新卒女性社員採用数(単体)	1	0	1	3	1	2	0	0	0	3
女性社員採用割合(単体)	7.6%	0%	4.7%	14.2%	3.3%	11.7%	0%	0%	0%	10.3
外国人採用数(単体)	1	0	6	0	0	0	1	1	0	1
外国人従業員数(単体)	2	2	8	6	6	6	7	8	5	5
外国人従業員(連結)	92	90	91	95	94	93	101	98	116	116
海外従業員数(連結)	92	90	91	95	92	91	101	98	123	121

### 環境負荷軽減新製品

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
新製品名	【砂専用乾燥装置】 【高温予熱バーナ】	【NTB-Ⅱバーナ】	【新型バグフィルタ】	【VPシリーズAP】	—	【フォームAS製造装置】
環境負荷軽減項目	・プラント生産効率UP ・省エネルギー	・省エネルギー ・燃焼領域での 燃焼効率UP	・省スペース ・省エネルギー ・排ガス量低減 ・低騒音	・再生材の 臭気ガス拡散防止	—	・中温化合材の製造対応

営業利益率・ROE



過去最高  
 売上高 383億円 (93/3)  
 営業利益 27億円 (90/11)  
 ROE(94年増資後) 6.8% (21/3)

(単位: 百万円)

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20/03	21/03
売上高	22,157	22,595	23,170	24,307	24,812	24,864	22,175	25,035	26,942	23,856	23,971	23,803	24,553	27,087	32,073	30,707	34,110	32,717	35,114	31,780	35,151	37,866
営業利益 (損失)	352	536	492	379	248	185	▲ 55	271	189	▲ 98	265	470	541	1,186	2,249	1,832	1,629	1,944	2,103	1,427	2,053	2,302
経常利益	201	846	664	688	492	537	350	699	545	482	899	812	621	1,108	1,982	1,582	1,648	1,993	2,239	1,576	2,142	2,973
当期純利益 (損失)	121	298	▲ 93	▲ 284	567	265	203	315	513	▲ 499	124	461	122	881	888	1,348	1,896	1,340	1,490	1,345	1,588	2,082

2021年度1Q決算説明 ▶ P.3-16

---

参考資料 ▶ P.18-21

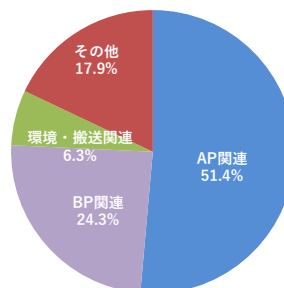
---

**会社情報** ▶ **P.23-27**

---

会社名	日工株式会社 (Nikko Co., Ltd)	
本社住所	兵庫県明石市大久保町江井ヶ島1013-1	
創立	1919年 (大正8年) 8月13日	
資本金	91億97百万円	(2021年3月末)
連結売上高	378億66百万円	(2021年3月期)
連結営業利益	23億02百万円	(2021年3月期)
海外売上高比率	9.9%	(2021年3月期)
子会社数	10社	(2021年3月期)
連結従業員数	861名	(2021年3月末)
企業統治体制	監査役会設置会社 取締役7名 (うち社外2名) 監査役4名 (うち社外3名) (2021年3月末)	

事業別売上構成比率 (2020年度)



※AP=アスファルトプラント  
BP=パッチャープラント(コンクリート)



## 経営理念

日工グループは、「お客様第一主義」を経営理念とし、お客様に真に満足いただける製品とサービスを提供するとともに、広く社会から信頼され、お客様と共に発展する“ソリューションパートナー”となることを使命に、自己変革してまいります。

取締役社長 **辻 勝**

製品展開	生産拠点展開	海外展開	国内グループ展開 (買収・譲渡含む)
1919 創立 トンボ印の農土木工具	1919 本社工場	1993 独ベニングホーヘン資本出資	1968 市石工業所 (M&A)
1951 コンクリートミキサー ・ウィンチ	1938 産機工場	1994 独ニッコーパウマーシーネン	1971 日工電子工業 (設立)
1956 生コンプラント	1968 東京工場	1997 台湾台北	1983 日エマシナリー (設立)
1958 アスファルトプラント	1994 幸手工場	2001 日工 (上海) 工程機械	1994 トンボ工業 (設立)
1962 パイプサポート	2004 上海嘉定工場	2010 山推礎天工程機械	1995 日工セック (設立)
1963 パイプ足場	2014 加古川工場	2020 日エアシア (タイ)	2002 新潟鉄工所 (事業譲受)
1966 コンベア・搬送システム	2016 福崎工場	2020 日エニルコソル (タイ)	2006 三菱重工業 (事業譲受)
1983 水門			2008 前川工業所 (M&A)
2000 油汚染土壌浄化システム			
2001 廃プラスチック処理システム			
2007 コンクリートポンプ			
2015 破砕機 (輸入販売)			





## 日エグループ経営ビジョン

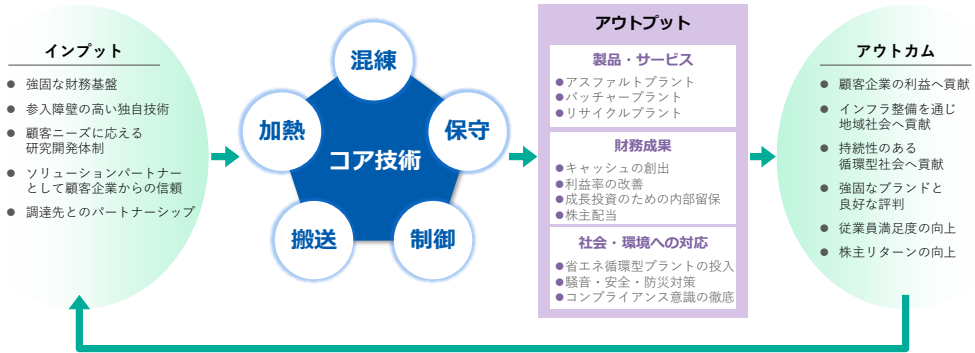
*n*からはじまる未来創造

アスファルト・バッチャープラントのリーディングカンパニーであり続けます。  
 海外事業を拡大しアジアマーケットにおけるNo.1メーカーを目指します。  
 当社のコア技術「加熱」「混練」「搬送」「制御」をブラッシュアップし事業拡大を行います。  
 社会貢献できる未来創造企業であり続けます。

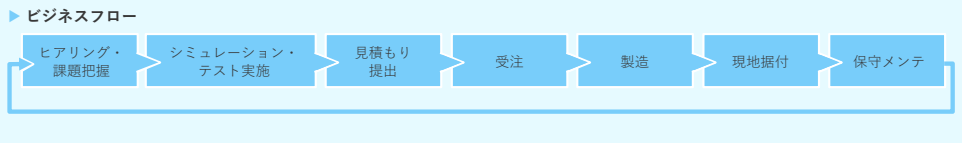
代表取締役社長

辻 勝

“街をつくるキカイ”を提供して1世紀。循環型社会の構築に貢献



2021年度予想 売上高 390億円 営業利益率 5.9%





*N*からはじまる未来創造

ミーティングのご希望などございましたら、お気軽に以下宛ご連絡ください

(オンラインミーティング、東京でのミーティングも可能です)

**TEL 078-947-3141 IR-nikko@nikko-net.co.jp**

日工株式会社 財務本部 八軒（はちけん）宛

- 当資料に記載されている将来の見通しなどについては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成されたものです。
- 当社を取り巻く内外の経済情勢、業界動向、商品需給、新技術の進展などにより、今後において業績見通しが変動するなどのリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、投資判断を決定する場合には、当資料の将来の見通しのみには依拠することは、お控えくださるようお願い申し上げます。
- また、当資料の将来の見通しに関する記述につきましては、法律上その手続きが必要となる場合を除き、事前予告なく変更する事もありますので、ご了承ください。